



老いを楽しむ

～傘寿を前に③～

誰もが老いる。老いを待ち望む人はいない。さをかもし出してくれ

だろう。しかし、いくら 正月前に新しい花屋 嫌でも避けて通れない で買い求めたチュー 道。しからば、逃げるこ リップ、百合、松で玄 となく老いを楽しんで 関を飾る。後ろのタペ ストリーは防府在住の 生活することを考える。 ストリーは防府在住の 染色家、鮎村秀子さ んから貰ったものだ。 「自然がもたらす」

若いころ見向きもし 彼女が防府カトリック なかった花を活けた 教会の信者さんで、染 色を持ち、そこに喜びを 色の世界では日本の 見つける。自然がもた トップ。過日、現代工 らず老いは花や草で心 芸美術展で最高の内閣 総理大臣賞を受賞され を癒やし、生活に豊か



正月花と藍染



鮎村さん、今年90歳。

た時、ラジオ番組に出 コで買い求めたものだ。 演頂き、以来親しくし テープブッククロスやラン

てもらう。御自宅にも チョンマツトとして各 何度か伺い、「太郎」や 地のタペストリーを集 「次郎」と名付けられ めた。月に1回は別の た染色のための瓶で、 ものにして部屋を飾 色々な作品を妻と一緒 気を変えるのも老いの につくらせてもらった。 楽しみ方の生活の1つで 藍染めは奥行きが深く ある。 79歳の私にも老いを楽 しませてくれる。

鮎村さんの作品集を プレゼントされたが、 裏表紙にご主人の「鮎 村芳美に捧ぐ」とある。 ふと自分にも妻に捧げ る何かがあるかと考え る。

今、玄関を飾ってい るのはバラの花と後ろ のタペストリーはトル



どの国にも独自の手刺しゅうがある

ち始めたのも、老いの 1つの表れ、それをこ れからどう楽しむか考 える。

一口に老いと言っ ても、今の自分たちのよ うに夫婦で老いを迎える 人もいれば、どちら かが亡くなり1人で老 いを生きている人、独 身の人と千差万別であ る。

勝手に、老いは夫婦 だっただのに、全てぶち で過ごすのが第一と考 えていたが、先月それ をひっくり返す出来事 が起こった。友人夫婦 が起った。友人夫婦 と正月祝いをした時、 ご主人は刺し身が好き なので多めに求めた。 因、だからそのトラウ マを肴(さかな)に

相撲は日本独自の文 化の1つ、歌舞伎、狂 言や俳句、短歌、川 柳などと共に日本固有 の伝統文化に関心を持 ないのだ。

改めて老いを2人で 楽しむことは簡単なこ とではないと鮎村さん の「ご主人に捧ぐ」と 書かれた作品集を取り 出したのである。